

《担当者名》 教授/會田 英紀 教授/古市 保志 教授/三浦 宏子 教授/永易 裕樹
 教授/石井 久淑 教授/高橋 伸彦 講師/塚越 慎 講師/田村 誠
 助教/尾立 光 客員教授/木下 憲治

【概要】

高齢者歯科学は、歯科医学のなかで最も新しい学問の一つとして位置づけられており、臨床だけに留まらず、加齢学、社会学、疫学などの幅広い学問体系をもつ。本科目では各専門分野の教員が分担して講義を行い、これまでに履修した基礎系科目ならびに臨床系科目の学修内容をふまえて超高齢社会において歯科医師に必要とされる知識を学習する。

【学修目標】

- 高齢者歯科医学の基本的な学問体系を説明する。
- 高齢者の社会保障と医療・保健・福祉を説明する。
- 生体の加齢と老化について説明する。
- 高齢者に多い全身疾患について説明する。
- 高齢者に多い口腔疾患について説明する。
- 高齢患者の臨床評価と診療方針の決定について説明する。
- 在宅・施設での診療環境の基本と訪問歯科診療について説明する。
- 高齢者の栄養評価と栄養管理について説明する。
- 高齢者における口腔機能について説明する。
- 高齢者における歯の欠損への対応について説明する。
- 高齢者における構音機能のリハビリテーションについて説明する。
- 摂食嚥下障害の基本的事項について説明する。
- 摂食嚥下障害の原因と病態について説明する。
- 摂食嚥下障害の評価と診断について説明する。
- 摂食嚥下障害への対応について説明する。
- 有病高齢者に対する歯科治療時の管理について説明する。
- 周術期の歯科処置について説明する。
- 緩和ケアについて説明する。
- 高齢者に多い歯、歯周組織の疾患について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	高齢者歯科医学概論	・ 高齢者歯科医学の基本的事項を理解する。 A5-1)- 、 A5-1)- 、 A5-1)-	會田 英紀
2	高齢者の社会保障と医療・保健・福祉	・ 高齢者の社会保障と医療・保健・福祉を理解する。 B2-2)- 、 B2-2)- 、 B2-2)-	三浦 宏子
3	生体の加齢と老化	・ 生体の加齢と老化（生物学的加齢変化、全体的加齢変化、知的機能の加齢変化及び口腔に関連した加齢変化）の基本を理解する。 C3-3)- 、 C3-3)- 、 C3-3)-	石井 久淑
4	高齢者に多い全身疾患	・ 高齢者に多い全身疾患を理解する。 1) 脳血管疾患（脳血管障害） 2) 認知症 3) 神経・筋疾患 E6-	高橋 伸彦
5	高齢者に多い全身疾患	・ 高齢者に多い全身疾患を理解する。 4) 関節疾患 5) 転倒、骨折 6) 廃用症候群 7) 誤嚥性肺炎 8) その他の疾患 E6-	高橋 伸彦
6	高齢者歯科の臨床	・ 高齢者に多い軟組織の疾患を理解する。 ・ 高齢者に多い硬組織の疾患を理解する。 ・ 高齢者に多い神経疾患を理解する。	永易 裕樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・ 高齢者に多い唾液腺等の疾患を理解する。 E5-1)-	
7	高齢患者の臨床評価と診療方針の決定 訪問診療	・ 高齢患者の臨床評価と診療方針の決定を理解する。 ・ 訪問診療について理解する。 E5-1)- 、E5-1)-	尾立 光
8	高齢者の栄養評価と栄養管理	・ 高齢者の栄養評価と栄養管理を理解する。 E5-1)-	塚越 慎
9	高齢者と口腔機能	・ 高齢者における口腔機能を理解する。 E2-4)-(11)- 、E2-4)-(11)- 、E5-1)-	會田 英紀
10	高齢者歯科の臨床 構音機能のリハビリテーション	・ 歯の欠損への対応を理解する。 ・ 構音機能のリハビリテーションを理解する。 E2-3)- 、E2-4)-(11)- 、E3-4)-(2)-	田村 誠
11	摂食嚥下リハビリテーション	・ 摂食嚥下障害の基本的事項について理解する。 ・ 摂食嚥下障害の原因と病態について理解する。 ・ 摂食嚥下障害の評価と診断について理解する。 E2-4)-(11)- 、E5-1)-	木下 憲治
12	摂食嚥下リハビリテーション	・ 摂食嚥下障害への対応について理解する。 E2-4)-(11)- 、E5-1)-	會田 英紀
13	有病高齢者に対する歯科治療時の管理 周術期の歯科処置 緩和ケア	・ 有病高齢者に対する歯科治療時の管理について理解する。 ・ 周術期の歯科処置について理解する。 ・ 緩和ケアについて理解する。 A5-1)- 、E5-1)- 、E6-	永易 裕樹
14	高齢者歯科の臨床	・ 高齢者に多い歯、歯髄、根尖歯周組織、辺縁歯周組織の疾患について理解する。 E5-1)- 、E5-1)- 、E5-1)-	古市 保志

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（100%）

【教科書】

よくわかる高齢者歯科学 永末書店 佐藤裕二、植田耕一郎、菊谷 武 編 2018年 ¥8,500+税

【参考書】

新版歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版 向井美恵、山田好秋、井上 誠、弘中祥司 編著 2019年 ¥8,000+税

摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版 才藤栄一、植田耕一郎 監修 2016年 ¥7,600+税

老年歯科医学 医歯薬出版 森戸 光彦、山根 源之、桜井 薫、羽村 章、下山 和弘、柿木 保明 編 2015年 ¥10,000+税

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲のよくわかる高齢者歯科学の当該部分を読んで、疑問点を整理しておく（50分）。

復習は、教科書、プリントなどを活用し、理解を深める（50分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得するために、老年歯科医学の基礎と臨床を学修する（専門的実践能力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために、超高齢社会において求められる社会的対応と訪問歯科診療を含む歯科的対応について学修する（多職種が連携するチーム医療）。

【実務経験】

高橋 伸彦（医師）、會田 英紀（歯科医師）、古市 保志（歯科医師）、三浦 宏子（歯科医師）、永易 裕樹（歯科医師）、石井 久淑（歯科医師）、塚越 慎（歯科医師）、田村 誠（歯科医師）、

尾立 光（歯科医師）、木下 憲治（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

高齢者に多い全身疾患についての講義は十分な実務経験のある医師が担当している。また、他の学習内容についても、高齢者・有病者の歯科治療、訪問歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションに関して十分な実務経験のある歯科医師が担当している。